



東京都 建設局

令和7年(2025年)7月作成



善福寺川上流地下調節池事業について

～ 水害から命と暮らしを守る調節池～



01 はじめに

- ・調節池の必要性 ……P1
- ・近年の東京都における降雨状況の変化 ……P2
- ・洪水対策の重要性 ……P3～4

02 事業計画

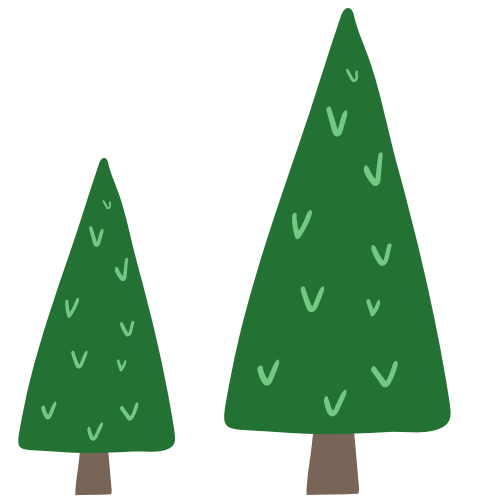
- ・河川整備の基本的な考え方 ……P5
- ・河川整備計画策定の経緯 ……P6
- ・事業の概要及び整備効果について ……P7～10
- ・都市計画決定手続き等における説明経緯 ……P11
- ・費用便益比（B／C）について ……P12

03 整備内容

- ・都立善福寺川緑地での整備について（発進立坑） ……P13～15
- ・区立関根文化公園での整備について（到達立坑） ……P16～18
- ・原寺分橋下流右岸部での整備について（連絡管立坑） ……P19～21
- ・整備スケジュール ……P22

04 環境配慮

- ・樹木への配慮について ……P23
- ・湧水の保全等について ……P24
- ・トンネル工事における安全性について ……P25～26
- ・工事エリアで行う防音壁等の仮設設置イメージ ……P27



01

はじめに

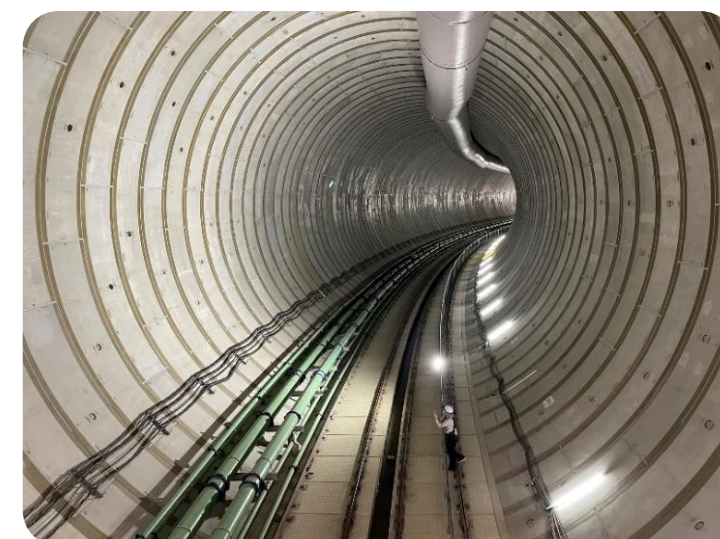
本事業にご関心のある皆さまに
事業の目的や内容を正確にお伝えできるように
本資料では、善福寺川の地下調節池整備について
詳しくご説明してまいります。

善福寺川上流地下調節池

善福寺川は、東京都杉並区の善福寺池を源流とし、神田川に合流する一級河川です。



シールドマシンイメージ



トンネルイメージ

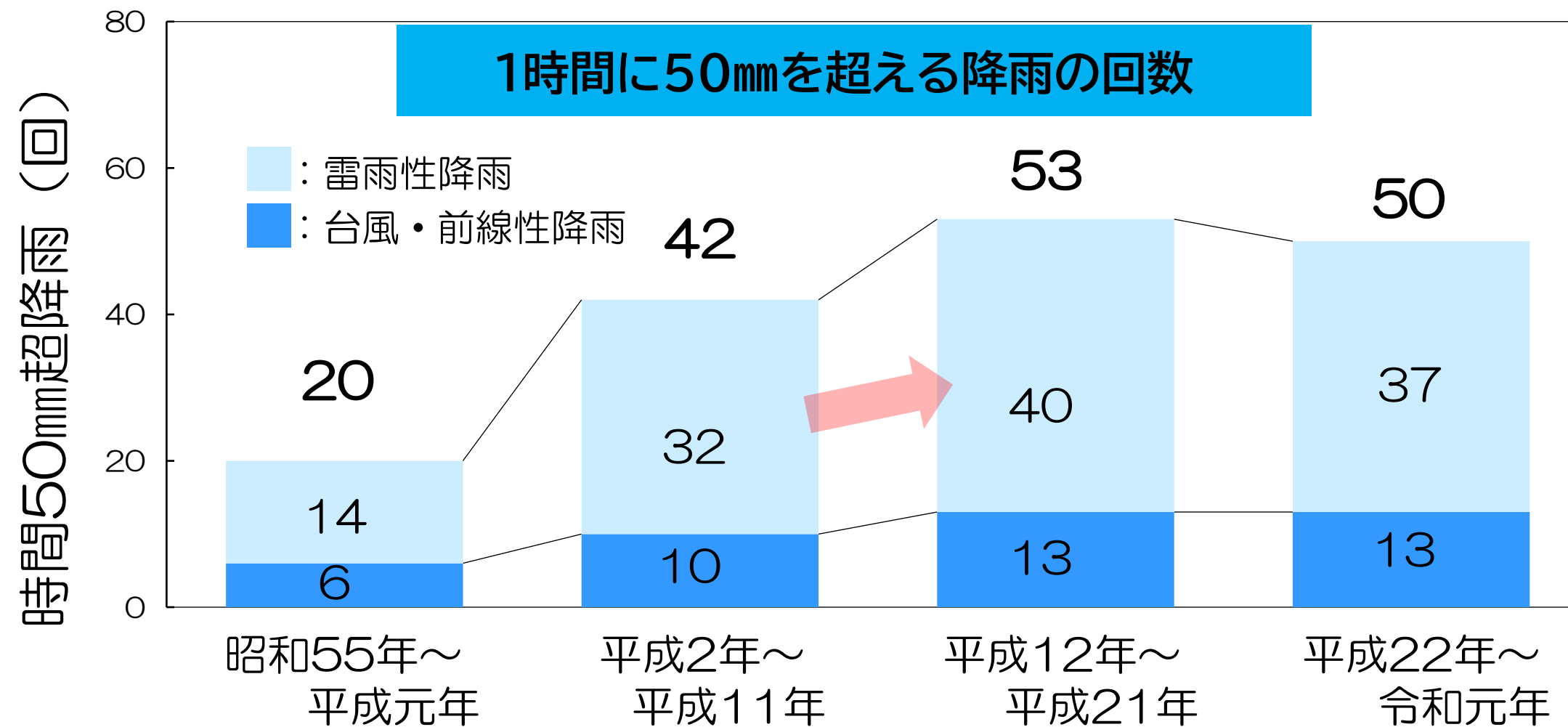
調節池は、大雨時に一時的に水を貯めることで、下流の洪水を防ぐことができるため、洪水による水害から命と暮らしを守るために、大変有効な施設です。

- 東京都では、洪水による水害から都民の命と暮らしを守るとともに、うるおいと安らぎのある水辺を創出するため、中小河川の整備を進めています。
- 善福寺川沿川は、平成17年9月の豪雨により、床上、床下あわせて約1,700棟の浸水被害が発生するなど、これまで複数回にわたり水害が発生しています。
さらに近年、1時間に50mmを超える降雨(台風や雷雨性の局地的集中豪雨)の増加に伴い水害リスクが高まっており、杉並区や地域の皆様からも早期整備の要望を頂いており、対策が急務となっています。
- このような水害リスクを軽減するために、東京都は平成24年に「中小河川における都の整備方針」を策定しました。この方針では、年超過確率20分の1規模の降雨(※1)に対応するため、時間50mmまでの降雨は川を拡げたり、深くすること(※2)で対応し、それ以上の降雨は調節池と流域対策で対応することとしています。
(※1)年に5%の確率で発生する降雨(区部時間75mm降雨) (※2)河道整備
- 善福寺川上流地下調節池は、年超過確率20分の1規模の降雨(※1)に対応するための施設で、洪水を一時的に貯めて下流の水位を下げ、浸水被害を減らします。これにより、主に善福寺川上流地域の浸水被害が早期に軽減されます。

本事業に関するこれまで頂いたご意見・ご要望に対して、今後も地域の皆様と丁寧な対話を重ねながら、事業を進めてまいります。

近年の東京都における降雨状況の変化

東京都では、近年、1時間に50mmを超える大雨の回数が増加しています。昭和55年からの10年間は20回でしたが、平成22年からの10年間では50回と、約2.5倍に増えています。1時間に50mmを超える大雨は、川が溢れたり、道路が冠水するなど大きな浸水被害が発生する可能性があります。

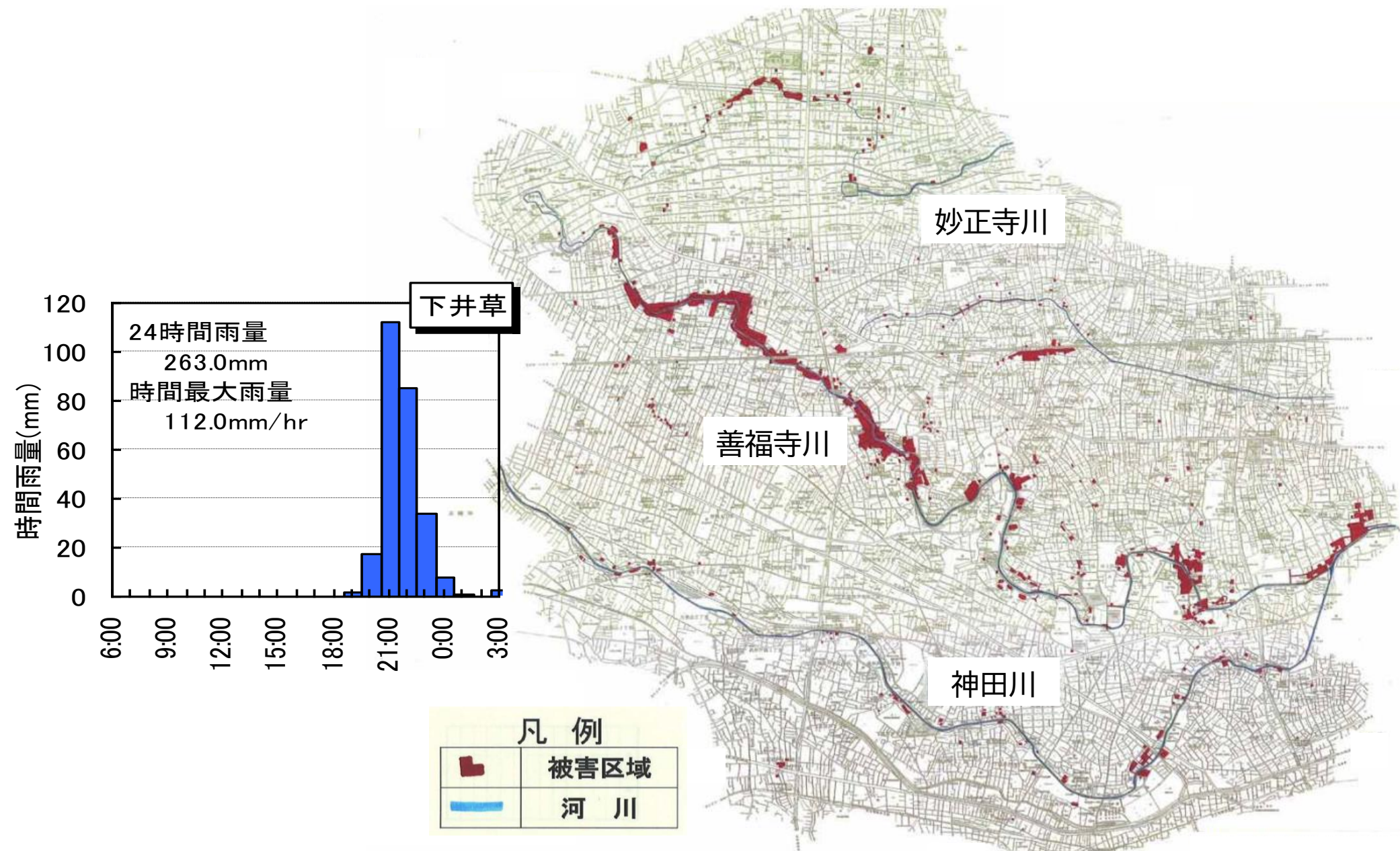


今後も、1時間に50mmを超える降雨(台風や雷雨性の局地的集中豪雨)の増加が予測され、水害リスクは益々高まっています

降雨状況の変化への対応が急務となっています

洪水対策の重要性（過去の代表的な水害からの考察①）

平成17年9月4日の集中豪雨では杉並区の下井草観測所で1時間最大雨量 112mm/hr、24時間雨量 263mmを観測するなど、都内各地で時間100mmを超える豪雨が発生しました。善福寺川流域においても浸水面積90.74ha、床上・床下浸水家屋が合計約1,700棟の被害が生じました。この災害に対して、都では善福寺川の下流部において河道整備などの対策を緊急的に進めました。善福寺川では、このような災害を繰り返さないよう洪水対策を行うことが求められています。



神田川上水橋付近



善福寺川和田広橋付近



【引用元】杉並区都市型水害対策検討専門家委員会
報告書(平成18年2月)より

洪水対策の重要性（過去の代表的な水害からの考察②）

令和5年6月3日の台風2号では、杉並区の新井分橋観測所で1時間最大雨量50mm、24時間雨量308mmが観測され、善福寺川の西田端橋～松見橋付近で溢水が発生しました。一方で、善福寺川の下流部では複数の既存調節池が効果を発揮し、溢水による浸水被害を防ぎました。このように、河道整備とともに調節池の整備を進めていくことが重要です。



※善福寺川の調節池における合計貯留量:31.2万m³

02

事業計画

ここでは、事業の計画や概要及び整備効果について
正確にお伝えするとともに
都市計画決定手続き等における説明経緯に関しても
詳しくご説明してまいります。

河川整備の基本的な考え方

東京都では、1時間に50mm以上の大雨が増えているため、平成24年に「中小河川の整備方針」を策定しました。この方針では、年超過確率20分の1規模の降雨(※1)に対応するため、時間50mmまでの降雨は川を拡げたり、深くすること(※2)で、時間50mmを超える降雨は調節池と流域対策で対応することとしています。

(※1)年に5%の確率で発生する降雨(区部時間75mm降雨) (※2)河道整備

目標

年超過確率1/20規模の降雨(※1)に対して、河川からの溢水を防止

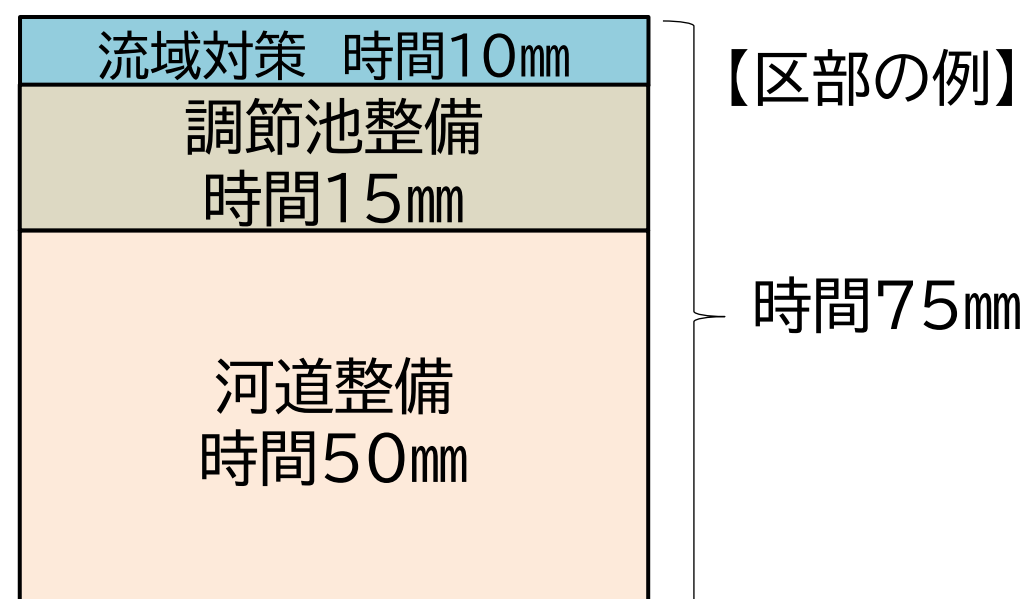
効果

都内で時間約75mmの降雨を記録し最大の浸水被害をもたらした狩野川台風規模の豪雨や、時間100mmの局地的かつ短時間の集中豪雨でも効果を発揮

整備の考え方

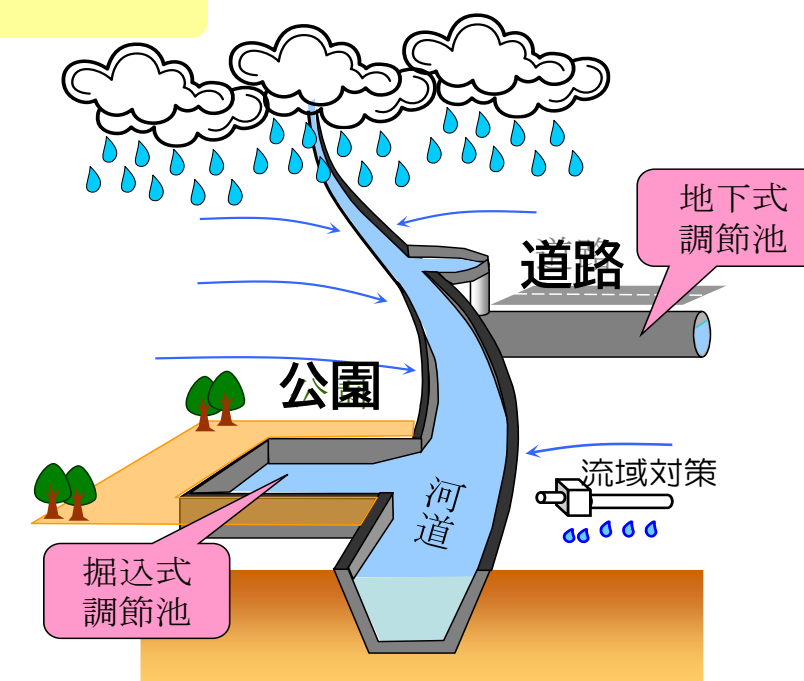
①時間50mmまでの対策は、河道整備で対応

②時間50mmを超える部分の対策は、新たな調節池と流域対策で対応



流域対策とは
・貯留浸透施設の設置など
(※民間企業や地域住民の協力が必要)

【整備イメージ】



善福寺川上流地下調節池は、神田川流域の洪水対策の一環として計画されています。計画策定・改定では、地域の皆様のご意見を取り入れるためにパブリックコメントを実施し、学識経験者や流域の区市長のご意見も反映しています。このように、具体的な川づくりの計画を定め、安全で潤いのある、地域に親しまれる川づくりを進めています。



決めた内容はこちら

時間50mmの目標降雨に対応するための計画

時間50mm以上の雨が頻発していることを踏まえ、都内中小河川の目標降雨を年超過確率1/20(※)に整備水準を引き上げ

年超過確率1/20(※)規模の降雨に対応するための計画
善福寺川の上流部に調節池を位置づけ

善福寺川上流の調節池の取水地点を、これまでの1箇所から3箇所に変更(善福寺川上流地下調節池事業の計画)

※区部で時間75mmの降雨

H21.4～

H21.11

パブリックコメント実施

学識経験者、流域区市長へ意見聴取

神田川流域河川整備計画策定

H24.11

学識経験者からの提言や
パブリックコメントを実施

中小河川における都
の整備方針策定

H27.5～

H28.3

パブリックコメント実施

学識経験者、流域区市長へ意見聴取

神田川流域河川整備計画改定

R4.9～

R5.3

パブリックコメント実施

学識経験者、流域区市長へ意見聴取

神田川流域河川整備計画改定

善福寺川（荒川水系一級河川）の概要

善福寺川は、杉並区の善福寺池を源流とし、杉並区内を西から東に流れ、中野区との区境で神田川に合流する川です。この地域では、降った雨が善福寺川に集まる流域が18.3km²あり、川の長さは10.5kmです。善福寺川上流地下調節池は、善福寺川の洪水対策として必要不可欠な施設であり、赤い丸で示された場所に設置されます。



○流域面積 18.3km²（中野区、杉並区、練馬区、武蔵野市）

○河川延長 10.5km 下流端：神田川合流
上流端：杉並区善福寺町二丁目

善福寺川上流地下調節池事業の概要

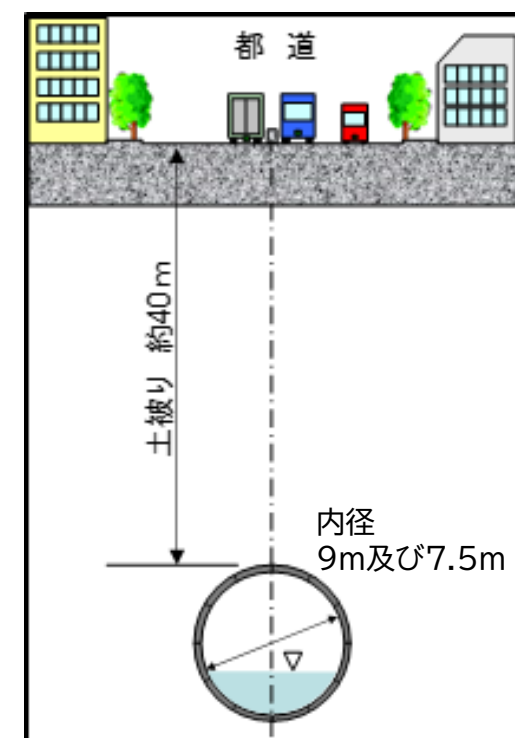
本調節池は、都立善福寺川緑地から区立関根文化公園を結ぶ地下トンネル式調節池です。令和5年3月に改定された神田川流域河川整備計画に基づく調節池で、約30万 m^3 の水を貯めることができます。都立善福寺川緑地から掘り始め、区立関根文化公園まで掘り進めるトンネル工事などを予定しています。

平面図



調節池容量:約30万 m^3
 本 管:延長約5.8km、内径 ϕ 9.0m、内径 ϕ 7.5m
 連絡管:延長約0.01km、内径 ϕ 4.4m

断面図

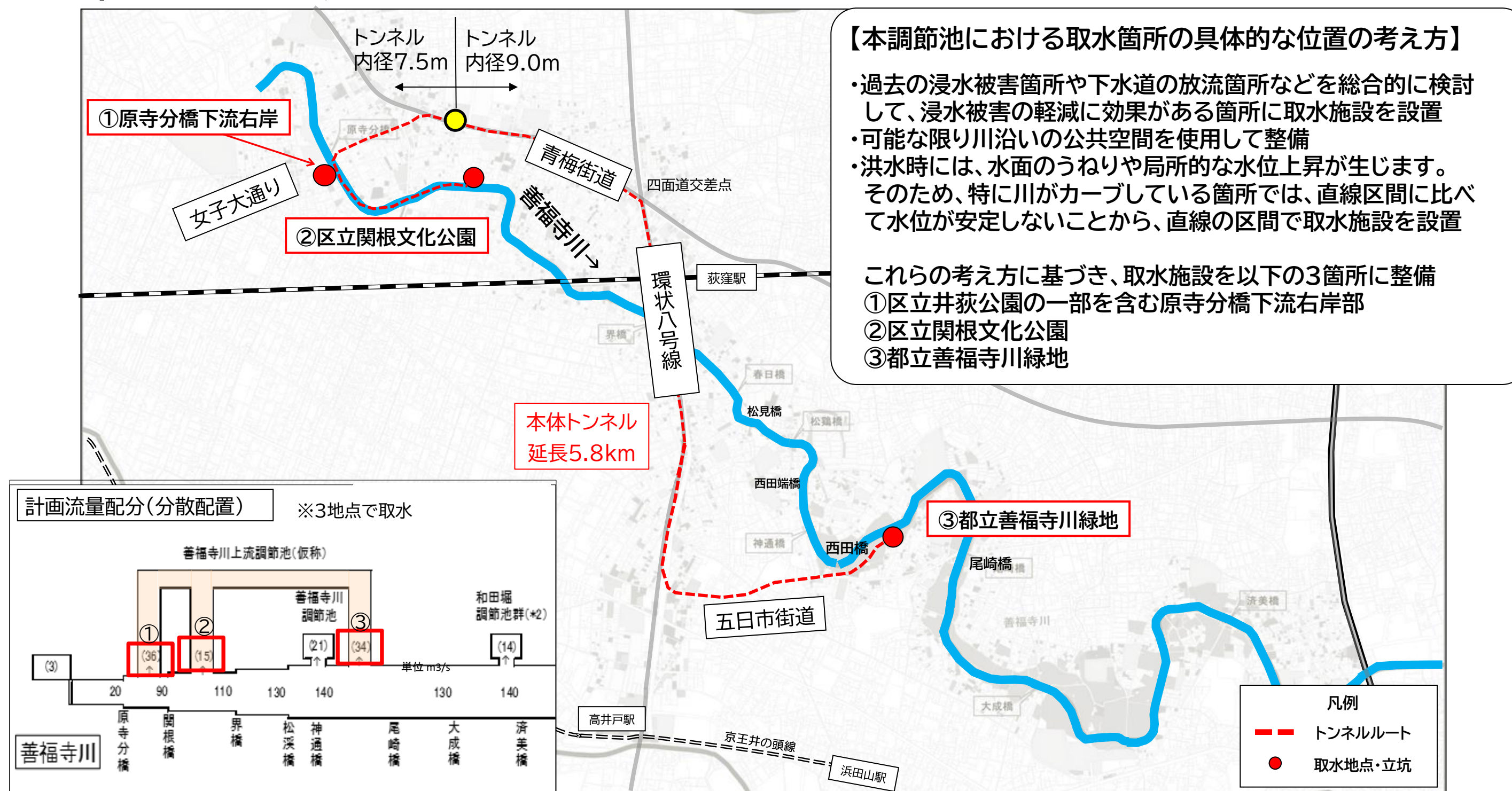


【凡例】

- --- トンネル本体工事
- --- 連絡管工事
- (丸:立坑 線:トンネル)

善福寺川上流地下調節池事業の計画

善福寺川上流地下調節池は、河川整備計画において3地点で洪水を取り込むこととしています。3地点で取水する量の合計が約30万 m^3 となり、この量を確保するように、トンネルの長さや直径を決定しています。トンネルルートや取水箇所は、道路や公園などの公共空間を活用して整備することを基本としています。

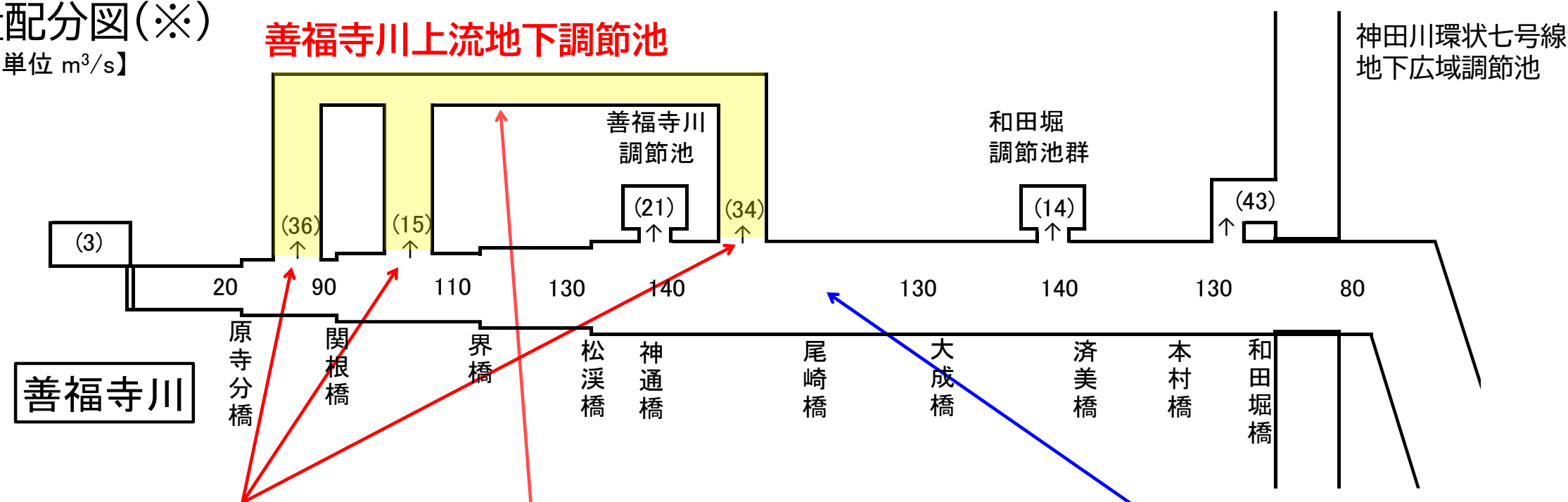


善福寺川上流地下調節池事業の整備効果

善福寺川上流地下調節池が完成すれば、大雨により河川水位が上昇した際に、調節池に一時的に川の水を貯留することで下流の河川の水位を下げて、浸水被害を減らします。また、河川の流せる能力を早期に向上させることにより、内水被害の軽減にも効果が期待できます。

●流量配分図(※)

【単位 m^3/s 】



①取水施設イメージ



河川水位が上昇した際に取水

②調節池(本体)イメージ



取水施設から取り込んだ水を貯留

③下流河川イメージ

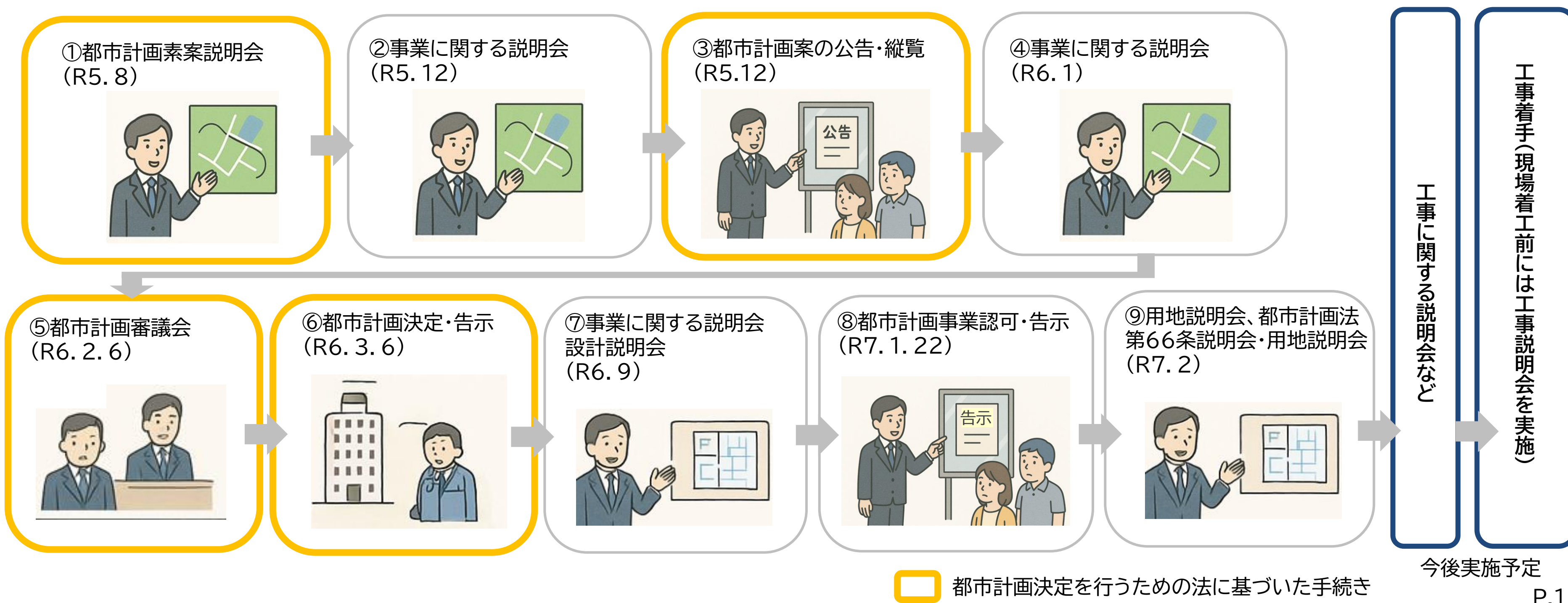


下流の水位を低下させる

※流量配分図とは

洪水時における河川の水量を、河道や調節池などにどのように配分するかを決定して図化したものです。具体的には、基本高水(計画で定める最大の洪水流量)を、河道を通じて安全に流す部分と、調節池などで一時的に貯留する部分に分けて、それぞれの流量を決定しています。

本事業は法に基づく手続きを経た上で、令和6年3月に都市計画決定されています。
その後、令和7年1月には都市計画事業に関する事業認可を取得しました。
計画内容については、令和5年8月の都市計画素案説明会や、都市計画案の縦覧など法に基づく手続きに加えて、各種説明会において、地元の皆さまにご説明させていただきながら進めています。



費用便益比(B/C)について

河川整備の効果を確認するための一つの手法として、費用便益比(B/C)という考え方を採用しています。これは、整備によって得られる利益(便益)とそのためにかかる費用の比率を計算するものです。

費用便益比(B/C)の評価

費用便益比(B/C)は、整備によって得られる利益(便益)とそのためにかかる費用の比率を示します。河川整備によって得られる利益(便益)が費用を上まわる場合に、費用便益比は1を超えます。

都の河川事業では、国土交通省の治水経済調査マニュアル(案)に沿って算出しています。流域全体で一律の安全度を確保(年超過確率1/20規模の降雨)する観点から、流域全体を対象に評価することを基本としています。

評価期間

河川整備の実施期間:約30年

事業完了後の評価期間:約50年

総便益(B)の算出

便益は河川整備計画に記載されている河道整備などを実施しない場合と、実施した場合の被害額の差(被害軽減額)から算出しています。被害軽減額に確率等を考慮して、年平均被害軽減期待額を算出し、これを評価開始時点の価値に換算して合計した値が総便益(B)になります。

総費用(C)の算出

費用は河川整備計画に記載されている河道や調節池などの全ての整備費用と維持管理費用を含めます。各年の費用を評価開始時点の価値に換算し、合計したものが総費用(C)です。

■神田川流域における費用便益比(B/C)(※令和6年度時点での評価値)

総便益(B)は681,488[百万円]、総費用(C)は484,451[百万円]のため費用便益比(B/C)は1.41

03

整備内容

長期間の整備を行うにあたっては
住民の皆さまのご不便が少しでも軽減されるように
都度、工事説明会を行うなど
関係者の皆さまと意見交換を行いながら、進めてまいります。

都立善福寺川緑地での整備においては、整備期間中に公園をどれくらい利用できるのか、工事場所の樹木などへの配慮はされるのか、工事中の騒音・振動対策がどのようなものか、というご意見を頂いています。下記の通り、十分配慮しながら、進めてまいります。

公園利用について

- ✓ 河川上に栈橋を設置して、施工ヤードを確保することで、工事期間中もなるべく広く公園が利用できるように工夫していきます。
- ✓ 工事中は西田橋及びせきれい橋を撤去しますが、仮橋を設置することで、公園利用者の皆さまの導線を確保します。
- ✓ 園路と施工ヤードが交差する箇所は、立体的に交差させ、公園利用者の皆さまの導線を確保します。
- ✓ 工事で支障となる防災施設や遊具は、移設するなど工事中も利用できるように検討しています。

樹木への配慮について

- ✓ 工事で支障となる樹木についても、極力保全するように計画しています。樹木への配慮については、本資料のP.23にも記載しています。

工事期間の環境について

- ✓ 騒音・振動対策は、防音壁等を設置して防音対策を行うとともに、低騒音・低振動の機械を使用するなど住民の皆さまの住環境に配慮してまいります。

都立善福寺川緑地では、環境や景観に配慮して、下記のような施設を整備予定です。

整備の方針

公園として利用できる範囲を可能な限り広くします。

- ✓ 地下部を活用し、地上部の建物面積を極力小さくしていきます。
- ✓ 管理棟と機械棟を集約し、施設建物の数を減らします。

建物の高さを可能な限り抑えます。

- ✓ 地下部を活用し、地上部の建物高さを極力低くしていきます。

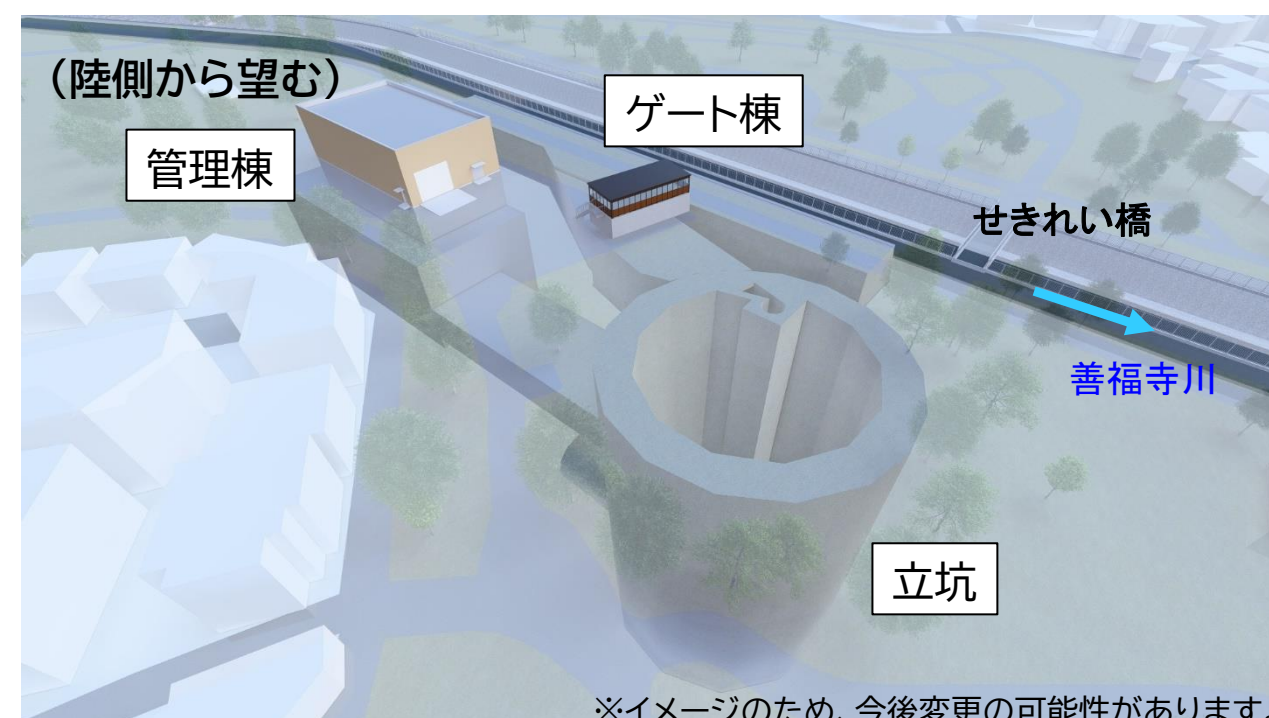
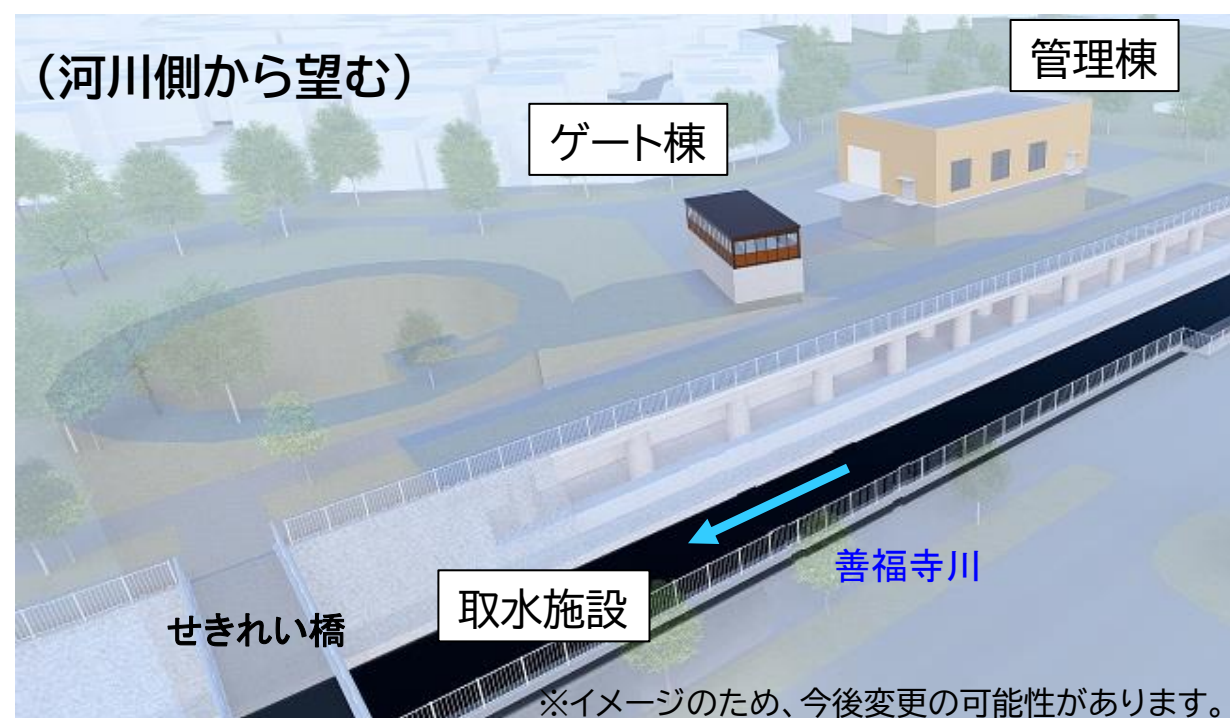
建物や維持管理用の通路は住宅から可能な限り離れた位置とします。

- ✓ 維持車両は河川沿いの通路を走行する予定です。

公園と調和したデザイン・機能とします。

- ✓ 壁の色、材質の工夫、壁面緑化等を検討します。

パース図



～用語解説～

管理棟: 維持管理のための施設です。具体的には、洪水時の河川水の流入や排水設備等の運転操作や監視制御を行うための施設です。

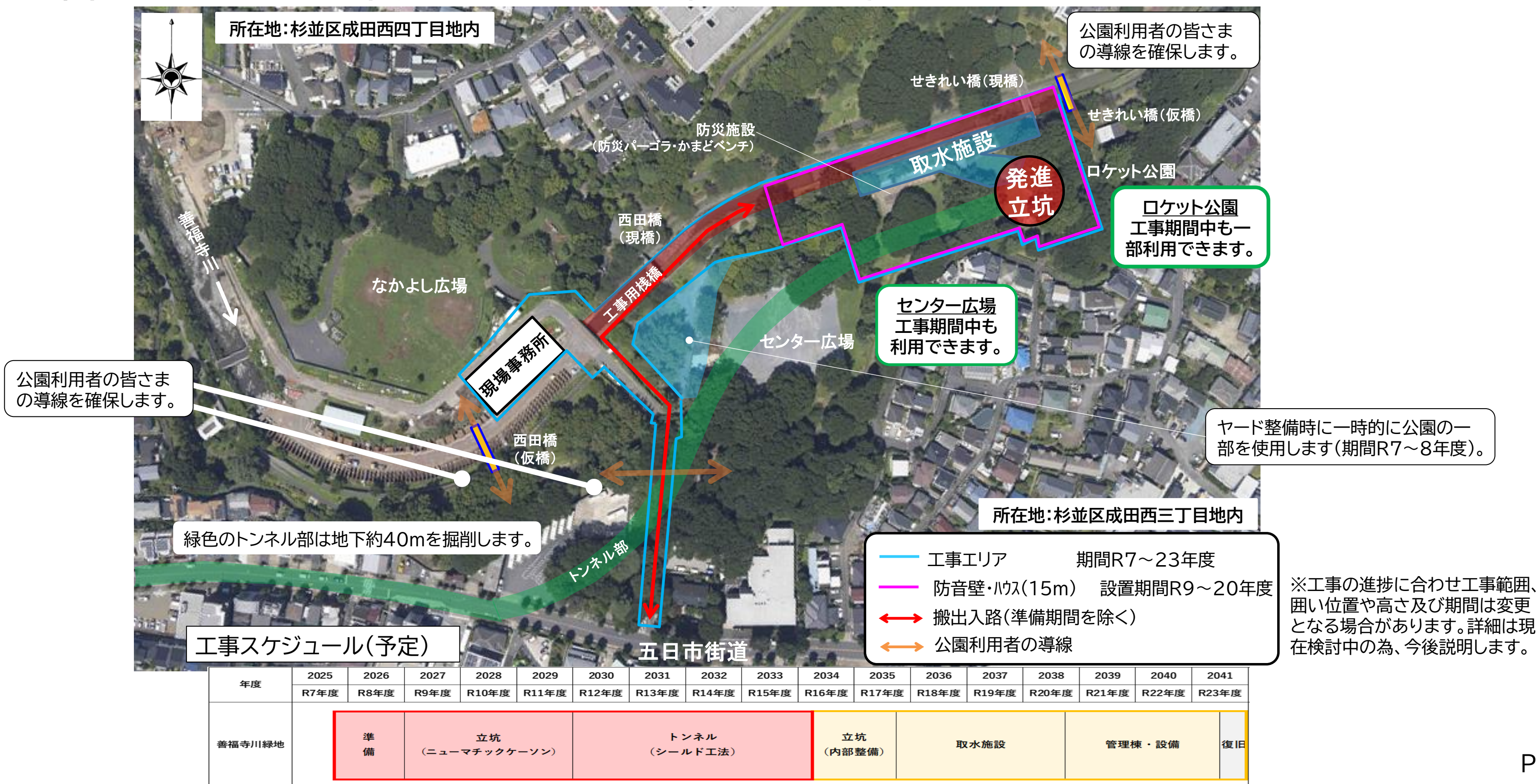
機械棟: 維持管理車両を地上部から地下40mへ昇降するための施設（ゴンドラ）やその他必要な機械が設置される施設です。

取水施設: 河川から洪水を取り入れ、調節池まで導く施設です。護岸沿いの越流堰、地下に水を落とす立坑などがあります。

ゲート棟: 取水施設に設置されるゲート（扉）を開閉及び収納する施設です。

都立善福寺川緑地での整備内容（発進立坑）

下記は都立善福寺川緑地での工事範囲を示しています。工事期間中もセンター広場は利用可能です。公園をなるべく広くご利用いただけるよう、配慮して工事を進めてまいります。



区立関根文化公園での整備においては、整備期間中の公園の代替地はあるのか、工事場所の樹木などへの配慮はされるのか、工事中の騒音・振動対策はどのようなものか、というご意見を頂いています。下記の通り、十分配慮しながら、進めてまいります。

公園利用について

- ✓ 河川上に栈橋を設置して、施工ヤードを確保することで、工事期間中もなるべく広く公園が利用できるように工夫していきます。
- ✓ 公園の代替地確保に向けて、引き続き杉並区と調整していきます。

樹木への配慮について

- ✓ 工事で支障となる樹木についても、極力保全するように計画しています。樹木への配慮については、本資料のP.23にも記載しています。



工事期間の環境について

- ✓ 騒音・振動対策は、防音壁等を設置して防音対策を行うとともに、低騒音・低振動の機械を使用するなど住民の皆さまの住環境に配慮してまいります。

区立関根文化公園では、環境や景観に配慮して、下記のような施設を整備予定です。

整備の方針

公園として利用できる範囲を可能な限り広くします。

- ✓ 地上部の建物の高さ・面積は可能な限り小さくします。
- ✓ 当公園では機械棟を設けません。

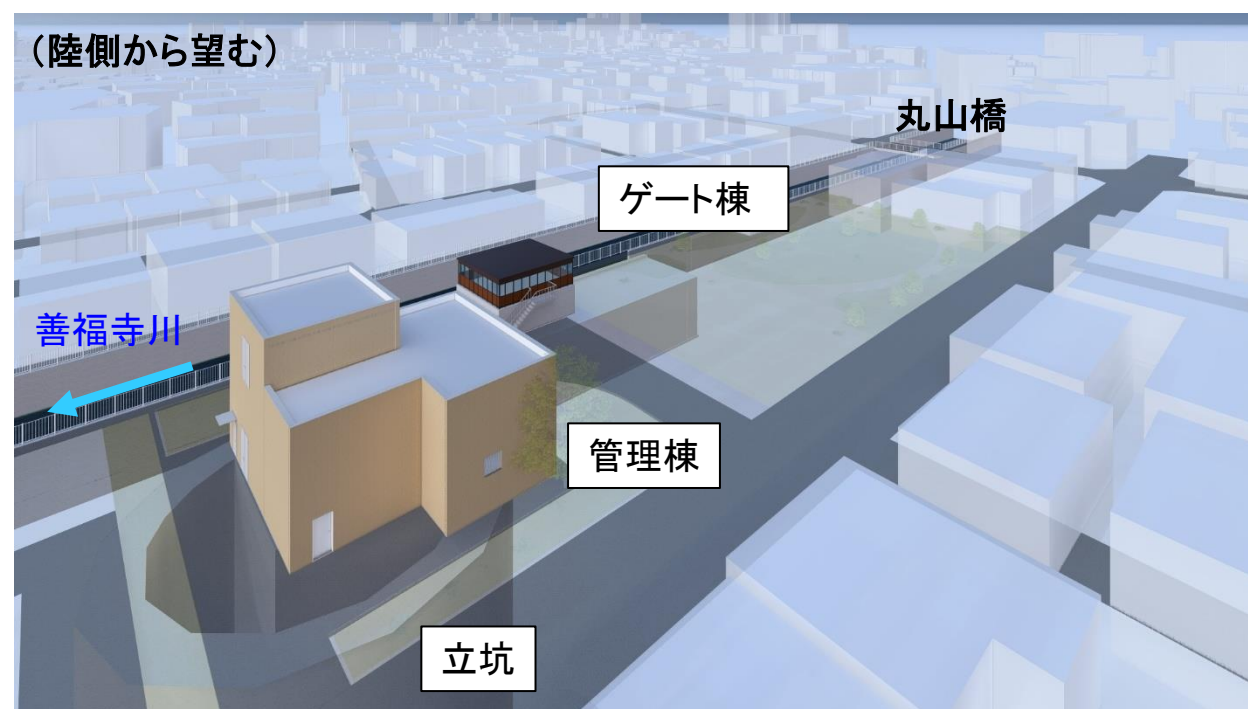
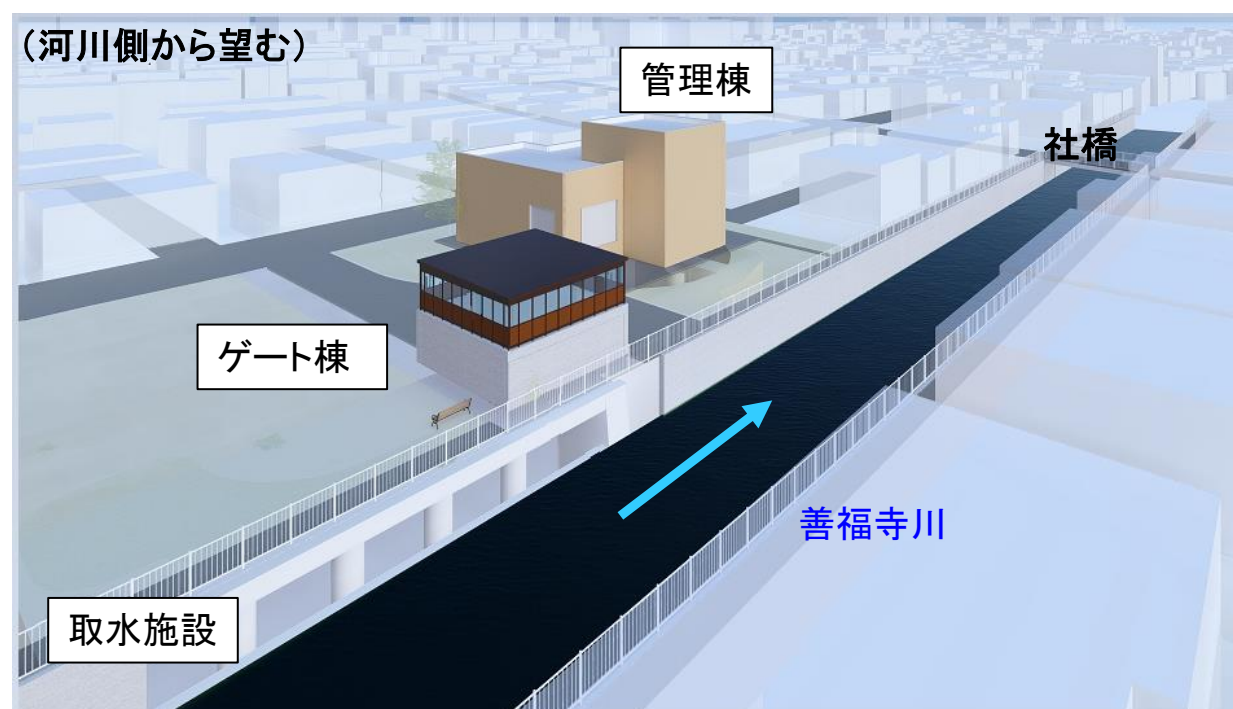
建物の高さを可能な限り抑えます。

- ✓ 地上部の建物の高さ・面積は可能な限り小さくします。

公園と調和したデザイン・機能とします。

- ✓ 壁の色、材質の工夫、壁面緑化等を検討します。

パース図



※イメージのため、今後変更の可能性あります。

～用語解説～

管理棟: 維持管理のための施設です。具体的には、洪水時の河川水の流入や排水設備等の運転操作や監視制御を行うための施設です。

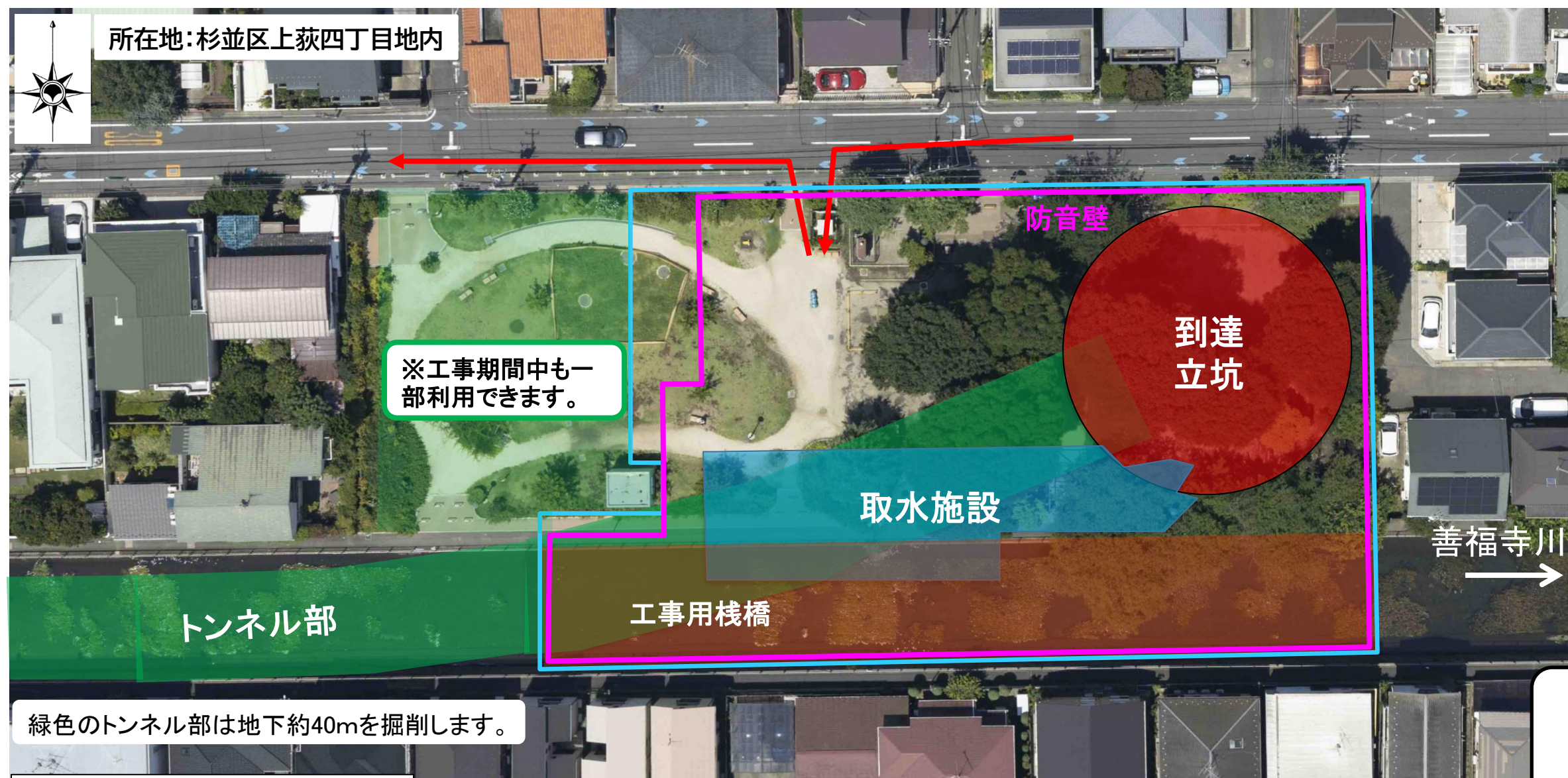
機械棟: 維持管理車両を地上部から地下40mへ昇降するための施設(ゴンドラ)やその他必要な機械が設置される施設です。

取水施設: 河川から洪水を取り入れ、調節池まで導く施設です。護岸沿いの越流堰、地下に水を落とす立坑などがあります。

ゲート棟: 取水施設に設置されるゲート(扉)を開閉及び収納する施設です。

区立関根文化公園での整備内容（到達立坑）

下記は区立関根文化公園での工事範囲を示しています。工事期間中も公園は一部利用可能です。公園をなるべく広くご利用いただけるよう、配慮して工事を進めてまいります。



緑色のトンネル部は地下約40mを掘削します。

工事スケジュール(予定)

年度	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
関根文化公園				準備		立坑 (ニューマチックケーソン)		取水施設		立坑 (内部整備)		管理棟・設備				復旧	

- 工事エリア 期間R10～21年度
- 防音壁(10m) 設置期間R12～17年度
- 搬出入路

※工事の進捗に合わせ工事範囲、囲い位置や高さは変更となります。詳細は現在検討中の為、今後説明します。

原寺分橋下流右岸部での整備においては、工事場所の樹木や湧水の保全などへの配慮はされるのか、工事中の騒音・振動対策がどのようなものか、というご意見を頂いています。下記の通り、十分配慮しながら、進めてまいります。

樹木への配慮について

- ✓ 工事で支障となる樹木についても、極力保全するように計画しています。樹木への配慮については、本資料のP.23にも記載しています。

湧水など環境への配慮について

- ✓ 湧水は保全していくように検討していきます。湧水への配慮については、本資料のP.24にも記載しています。

工事期間の環境について

- ✓ 騒音・振動対策は、防音壁等を設置して防音対策を行うとともに、低騒音・低振動の機械を使用するなど住民の皆さまの住環境に配慮してまいります。



原寺分橋下流右岸部では、環境や景観に配慮して、下記のような施設を整備予定です。

整備の方針

建物の高さを可能な限り抑えます。

- ✓ 地上部の建物の高さ・面積は可能な限り小さくします。

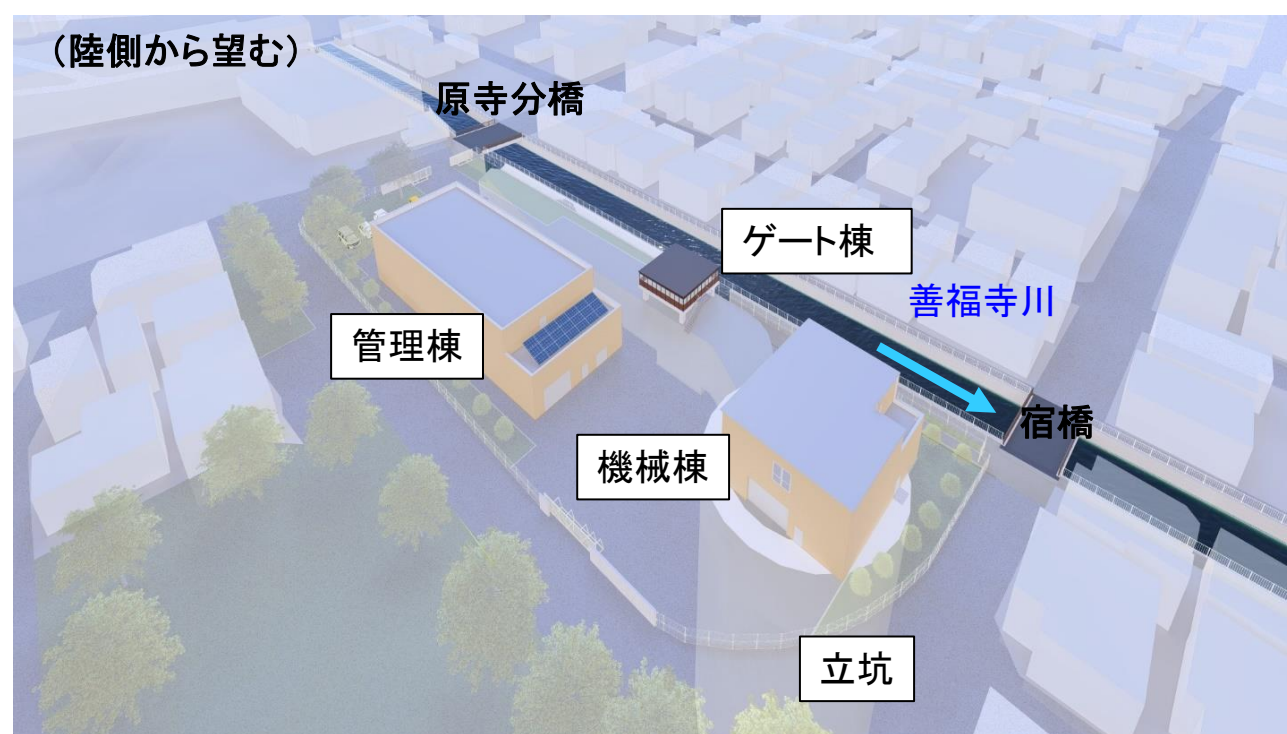
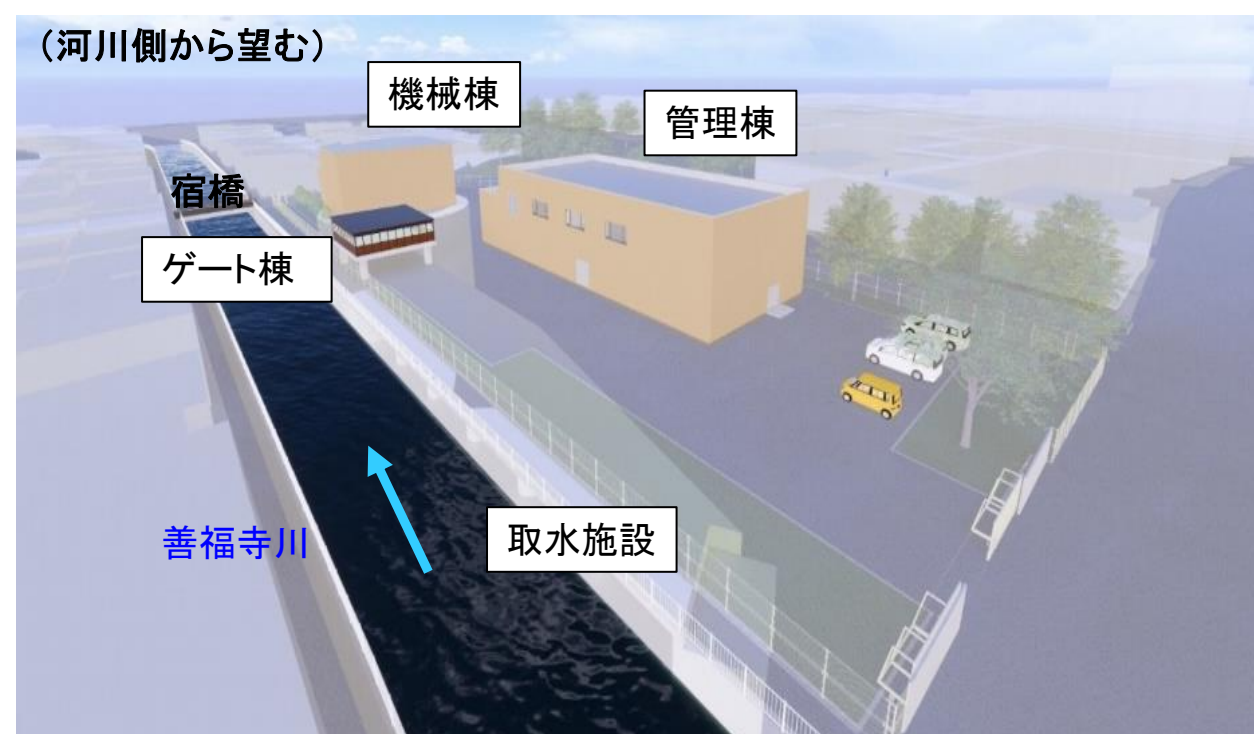
周辺環境と調和したデザイン・機能とします。

- ✓ 周辺の住宅街や公園を考慮し、壁の色、材質を工夫します。
- ✓ 敷地内は植栽や壁面緑化等を検討し、緑を確保します。

施設周辺の現況機能を残すように努めます。

- ✓ 区立井荻公園の高地部は、これまで通り利用可能です。
- ✓ 既存道路の代替道路の確保について検討していきます。

パース図



※イメージのため、今後変更の可能性があります。

～用語解説～

管理棟: 維持管理のための施設です。具体的には、洪水時の河川水の流入や排水設備等の運転操作や監視制御を行うための施設です。

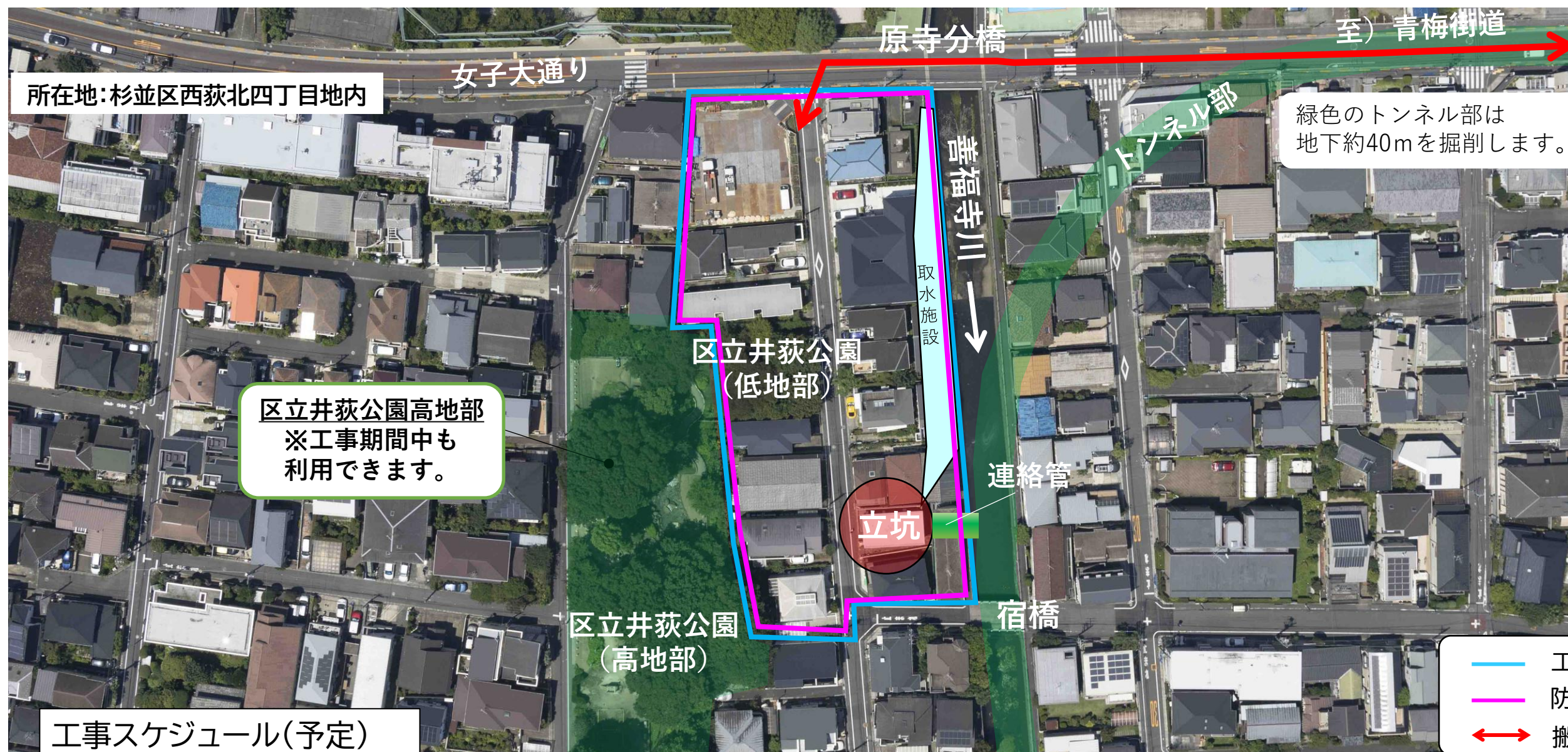
機械棟: 維持管理車両を地上部から地下40mへ昇降するための施設(ゴンドラ)やその他必要な機械が設置される施設です。

取水施設: 河川から洪水を取り入れ、調節池まで導く施設です。護岸沿いの越流堰、地下に水を落とす立坑などがあります。

ゲート棟: 取水施設に設置されるゲート(扉)を開閉及び収納する施設です。

原寺分橋下流右岸部での整備内容（連絡管立坑）

原寺分橋下流右岸部での工事範囲を示しています。今後詳細な設計を行ってまいります。
区立井荻公園の高地部については、工事期間中も利用できます。



年度	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041										
	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度										
原寺分橋 下流右岸																											
	<table><tr><td>準備</td><td colspan="2">立坑 (ニューマチックケーソン)</td><td>連絡管</td><td colspan="2">立坑 (内部整備)</td><td colspan="2">取水施設</td><td colspan="3">管理棟・設備</td></tr></table>																	準備	立坑 (ニューマチックケーソン)		連絡管	立坑 (内部整備)		取水施設		管理棟・設備	
準備	立坑 (ニューマチックケーソン)		連絡管	立坑 (内部整備)		取水施設		管理棟・設備																			

※工事の進捗に合わせ工事範囲、囲い位置や高さは変更となります。詳細は現在検討中の為、今後説明します。

※原寺分橋下流右岸部（施工フロー）については、今後詳細な設計を行っていきます。設計の進捗状況に応じて、地域の皆様方へ説明していく予定です。

工事期間は令和7年度～令和23年度を予定しています。工程は現在設計中の為、変更となる場合がありますが、少しでも期間が短くなるよう検討しながら進めてまいります。

年度	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
善福寺川緑地	準備 立坑 (ニューマチックケーソン) トンネル (シールド工法) 立坑 (内部整備) 取水施設 管理棟・設備 復旧																
関根文化公園	準備 立坑 (ニューマチックケーソン) 取水施設 立坑 (内部整備) 管理棟・設備 復旧																
原寺分橋 下流右岸	準備 立坑 (ニューマチックケーソン) 連絡管 立坑 (内部整備) 取水施設 管理棟・設備																
調節池 運用	関根文化公園 から取水開始 善福寺川緑地および 原寺分橋下流右岸部 からも取水開始予定																

04

環境配慮

長期間の整備を行うにあたっては
住民の皆さまのご不便や周辺環境への負荷が
軽減されるように、配慮してまいります。

樹木への配慮について

樹木については、公園内の樹木への影響を極力減らすように工事を計画していく予定です。
検討の結果、樹木がどうしても工事に支障となる場合は、樹木診断結果を基に、可能な限り移植または剪定していきます。そのうえで、移植に耐えられないと診断された樹木や、運搬できない樹木については、伐採を予定しています。
工事完了後の復旧方法等については、引き続き検討していきます。

たとえば、下記のような木が伐採対象となります

腐朽



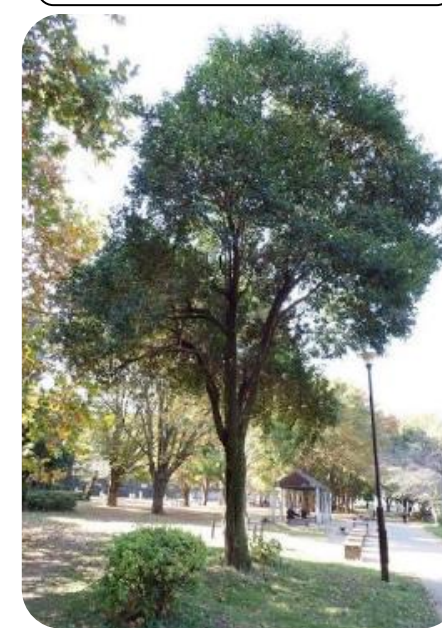
ナラ枯れ



構造物巻き込み



外来種



枯れ木



運搬不可な樹木

- ・敷地内に移植先が無い場合
- ・道路上走行が不可能な場合

都立善福寺川緑地の樹木

支障となる木 約158本
 ・剪定:56本
 ・移植:64本
 ・伐採:38本

区立関根文化公園の樹木

支障があった木 約64本
 ・剪定:0本
 ・移植:50本
 ・伐採:14本

区立井荻公園の樹木

支障があった木 約14本
 ・剪定:0本
 ・移植:14本
 ・伐採:0本

※本数は令和7年2月の説明会で提示した数です。
 ※今後、工事を実施するにあたり、樹木状況の変更等で本数が変更となることがあります。

湧水の保全等について

本事業は環境アセスメント対象事業ではありませんが、これまで地下水調査などの環境調査を行っています。今後も湧水に関する環境調査等を実施してまいります。

【原寺分橋付近の湧水】



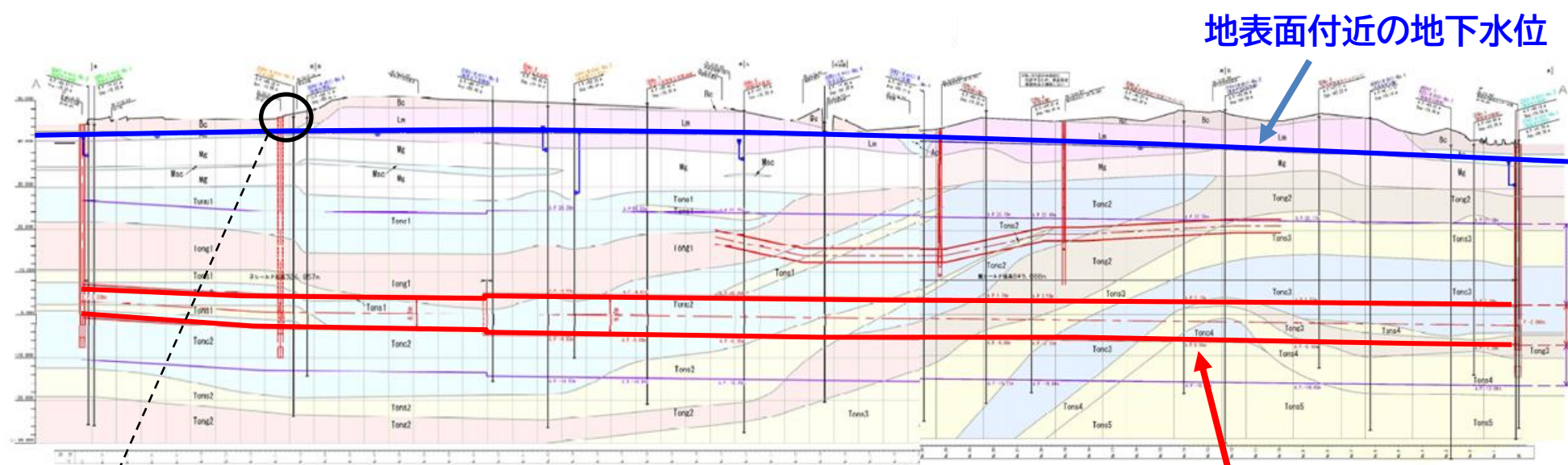
原寺分橋付近の湧水は、東京の湧水マップ(※)に記載されている善福寺川の貴重な湧水箇所の一つです。
※東京都環境局が実施した、区市町村アンケート結果を基に作成したものです。

対応方針

- ・原寺分橋付近に調節池施設を整備することによる、湧水への影響について検討を行います。
- ・湧水の現状を把握する調査についても実施していきます。

地下水調査

⇒R4年度より実施、今後も継続して調査予定です。



原寺分橋付近の地下水位は、地表面から3.5m程度のところにあります。

シールド通過箇所



地下水観測の状況

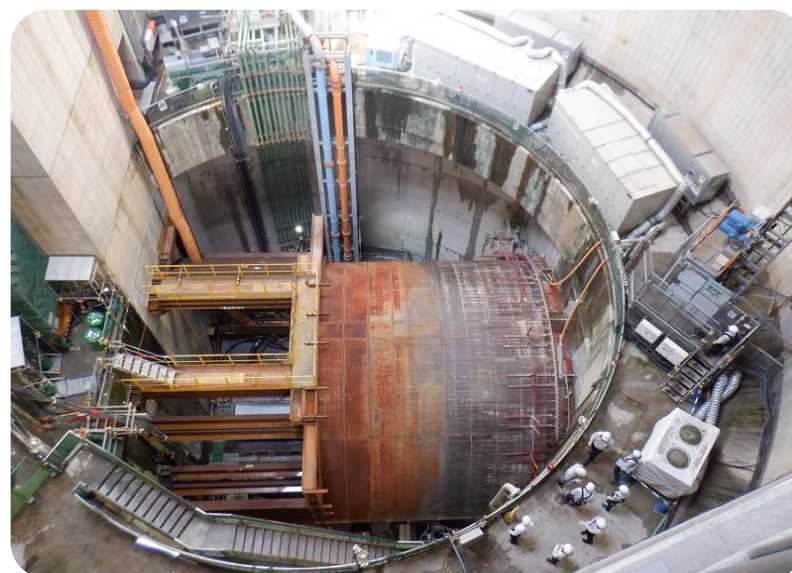
トンネル工事における安全性について

トンネル工事においては、安全対策及び情報提供に配慮してまいります。
たとえば、本工事では、地盤条件に適した泥水式シールド工法を用いて安全・確実に施工していきます。
また、工事中も、地表面の変化状況などについて、継続して調査を行います。工事情報に関しては、近隣の皆さまへ、ホームページなどで丁寧に情報提供を行ってまいります。

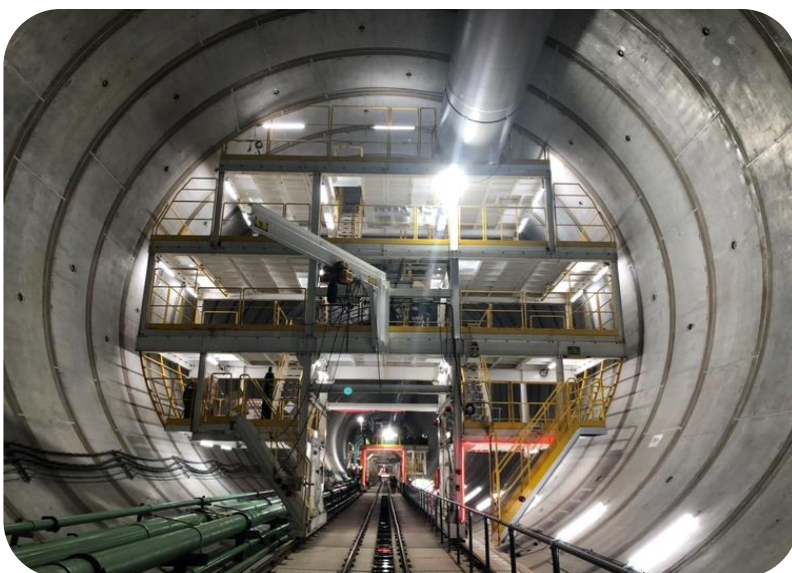
シールドマシン、トンネル：環状七号線地下広域調節池の例



シールドマシン



発進立坑からシールドマシン発進状況



トンネル内部の設備の状況

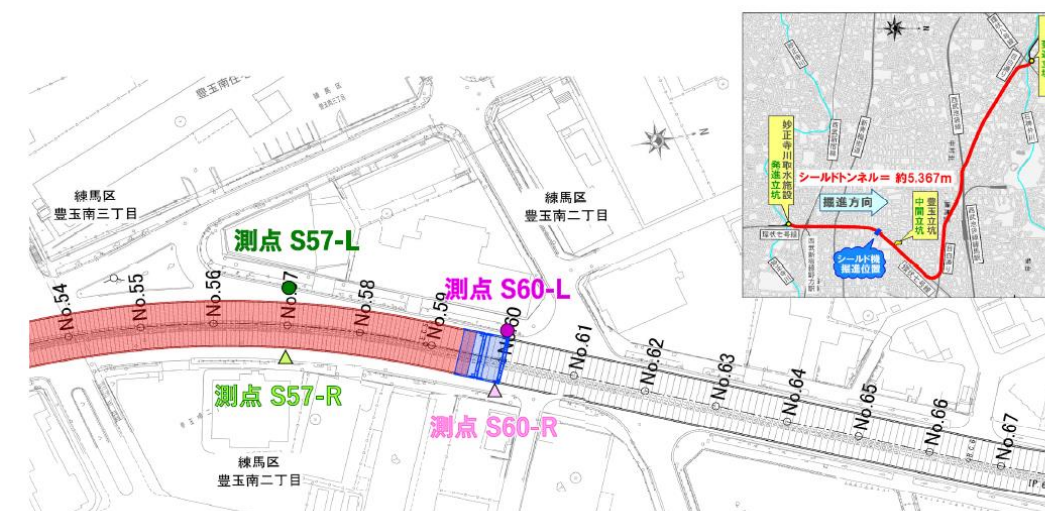


トンネル施工中

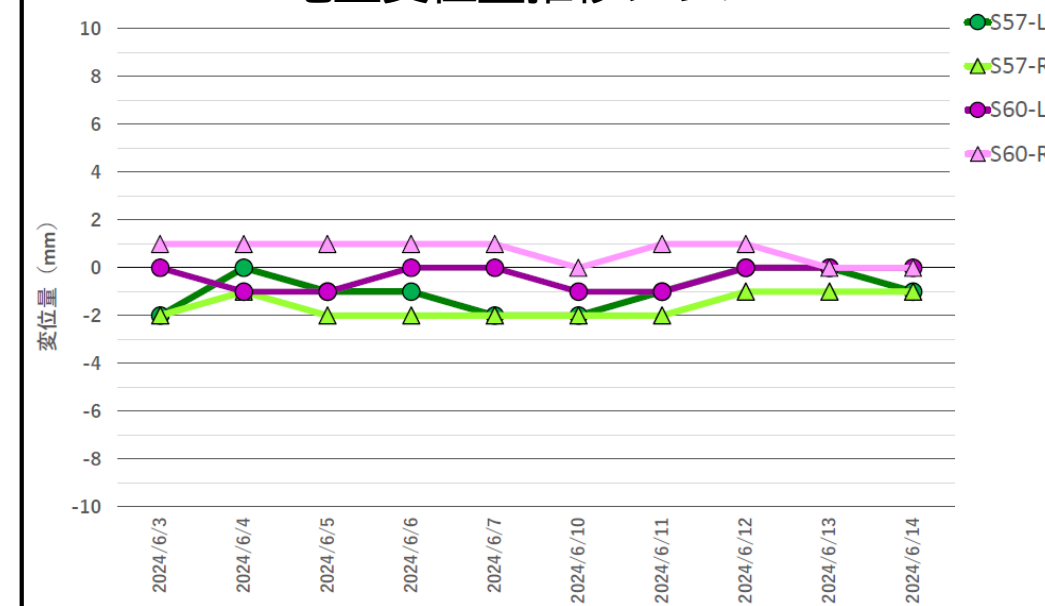
【地表面変状の情報提供(例)】

シールド掘進・組立進捗図（詳細）

2024年6月14日（金）現在
743R掘進組立完了
掘進延長：1186m



地盤変位量推移グラフ

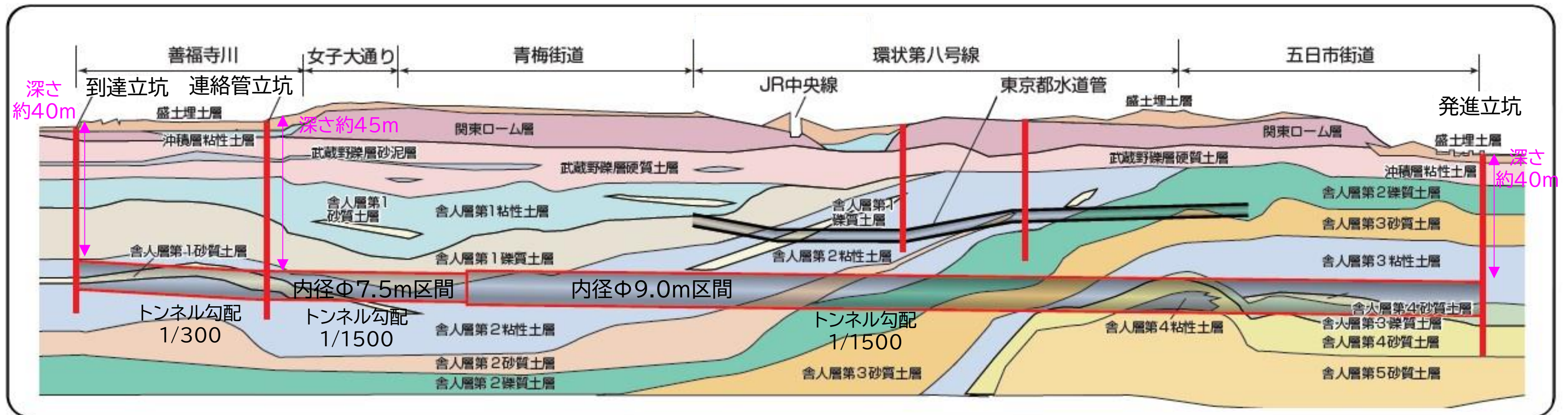


出典：環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事HP

地質調査の結果、トンネル設置箇所地盤は全区間、硬質で安定した地盤であることを確認しています。トンネルや立坑などは、地盤条件に対応した設計を行っています。

- トンネルルート上で200mに1箇所程度ボーリング調査を行い、地盤の状況を把握しています。
- 地層は、地表面から盛土、沖積粘土層、関東ローム、武蔵野礫層、上総層群舎人層(※1)で構成されています。
- 掘削土層は上総層群舎人層(※1)の砂礫、砂、粘性土で、いずれも硬質(N値粘性土30以上、砂・砂礫50以上)です。
- 地質調査に併せて地下水の状況も把握しています。

【地質調査から推定した地質縦断図とトンネル設置箇所】



(※1)上総層群は、約280万年～700万年前に海で堆積した地層であり、広く関東平野の地下に厚く堆積しています。
 舎人層は、上総層群を構成する地層の一つで、非常に締まった砂礫、砂、粘性土が重なるように交互に分布する地層です。

工事エリアで行う防音壁等の仮設設置イメージ

本事業では防音壁等の設置や河川上に栈橋を設置するなど、近隣の皆さまのご不便が少しでも軽減されるよう努めながら、事業を進めてまいります。

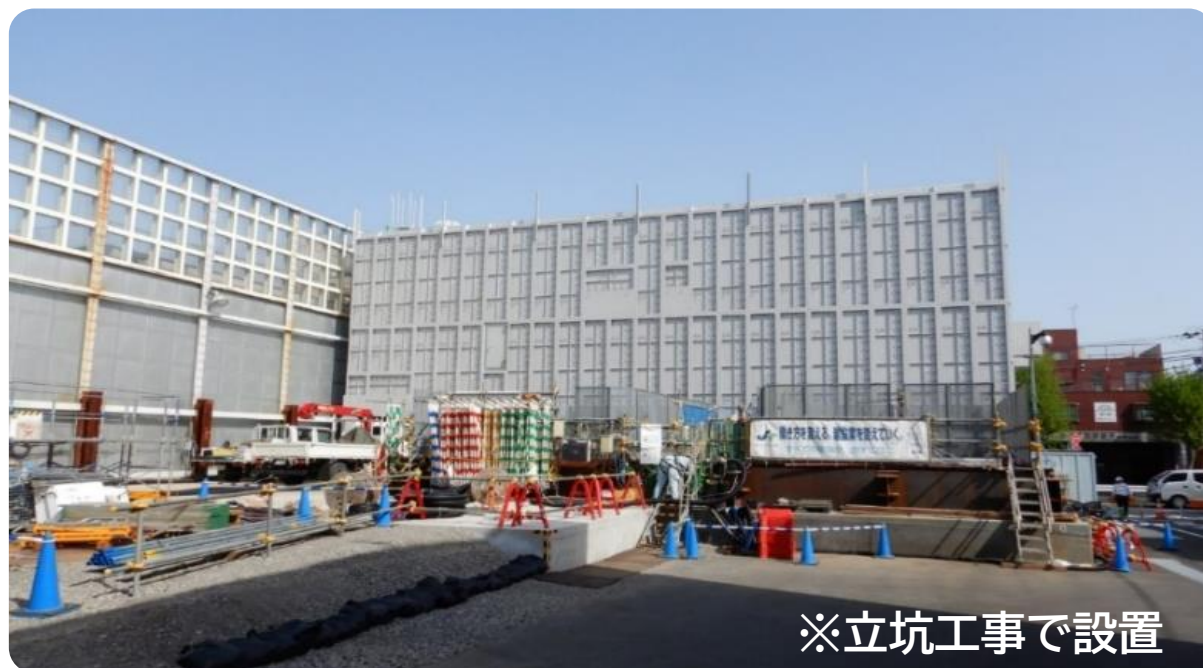
工事エリアを仮囲いで囲い安全を確保



河川上に栈橋を設置して公園内の有効スペースを拡大



防音壁を設置して騒音等を軽減



※立坑工事で設置

防音ハウスを設置して騒音等を軽減



※シールド工事(発進側)で設置



善福寺川上流地下調節池事業に関しては、地域の皆様にご理解ご協力いただけるように
今後もし説明する場を設けて、ご意見やご要望を参考にしながら、事業を進めてまいります。

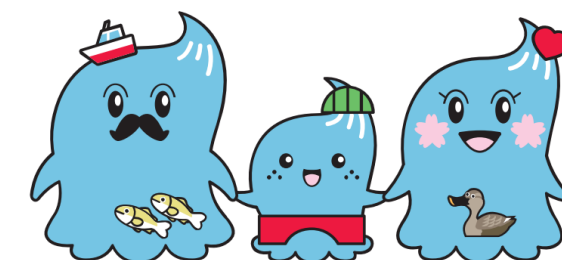
その他の関連資料はこちら

これまでの本事業に関する説明会等について

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/sanken/kakusyukaigi/daisan0069>

よくある質問について

https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/river/chusho_seibi/zenpukuji/zenpukuji_qa



かわいこちゃん パパ かわいこちゃん かわいこちゃん ママ

東京の河川PRキャラクター